

高校生と  
保護者の  
進路に関する  
意識調査

2023

子ども主体な  
世の中に  
とても期待している  
宮崎県/母親

# 新課程が始まり 進路や学校への意識に 変化はあったか

第11回となる本調査の対象は、新課程が始まった2022年度に高校生活を迎えた高校2年生(現・3年生)とその保護者だ。予測困難な時代を見据え、保護者の時代にはなかった教科・科目を生徒たちは学び始めているが、世界情勢やテクノロジーは新学習指導要領が検討されていたころよりもさらに加速的に変貌している。この時代に進路検討や教育の変化がどう受け止められているか、最新の調査結果から考えていきたい。

新しい技術の開発に  
とてもわくわくしている  
群馬県/男子生徒

机上外の学習が  
普遍化することに期待  
宮崎県/女子生徒

(教育改革について)  
変化が激しく、正しい方向に  
向かっているかわからない  
徳島県/父親

Part1 この2年での親子コミュニケーションの変化 …… 34ページ

Part2 学校に対する認識と期待 …… 37ページ

## 調査概要

一般社団法人全国高等学校PTA連合会×株式会社リクルート 合同調査

- 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート合同調査
- 調査対象/全国の高校2年生とその保護者:全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校(2年生2クラス分の高校生と保護者)に発送し、協力を得た
- 調査期間/2023年9月15日(金)~2023年10月13日(金)回収終了
- 調査方法/学校を通した質問紙による自記式調査/またはWeb画面からの回答
  - ①高校生/ホームルームにてアンケートを配布
  - ②保護者/高校生から保護者へアンケートを手渡し
  - ③紙調査票に回答、または記載のURLなどからWeb調査画面にアクセスして回答
  - ④紙調査票またはWebへの回答完了証を学級担任が取りまとめ、学校責任者が返送
- 有効回答数/高校生1752人、保護者1457人 ※全問無回答を除く
- 調査実施/株式会社アンド・ディ

※グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示しています  
※詳細な報告書はリクルート進学総研Webサイトに掲載しています

## 【回答者プロフィール】

- 性別/男子49.5% 女子45.1% その他1.7% (無回答3.8%)
  - 高校タイプ/普通科80.1% 専門学科18.5% 総合学科1.4%
  - 地域分布/北海道11.9% 秋田県9.7% 群馬県12.6% 東京都9.8% 福井県12.8% 静岡県11.2% 奈良県10.0% 徳島県9.5% 宮崎県12.6%
  - 高校卒業後の希望進路/大学69.7% 短大1.9% 専門職大学0.6% 専門職短大0.2% 専門学校 13.2% 海外の大学等0.2% 就職12.4% その他1.0% (無回答0.6%)
- 
- 続柄/父親14.4% 母親81.7% その他0.9% (無回答3.0%)
  - 子どもの性別/男子48.9% 女子48.1% その他0.1% (無回答2.9%)
  - 地域分布/北海道8.8% 秋田県10.5% 群馬県13.7% 東京都8.8% 福井県13.7% 静岡県12.8% 奈良県9.6% 徳島県10.8% 宮崎県11.3%
  - 子どもに対する高校卒業後の希望進路/大学54.8% 短大1.1% 専門職大学1.4% 専門職短大0.5% 専門学校7.4% 海外の大学等0.3% 就職7.8% その他0.4% 子どもが希望する進路なら何でもいい25.5% (無回答0.9%)

構成・文/長島佳子

## Part1

この2年での親子コミュニケーションの変化

子どもを尊重する保護者が増加傾向。  
保護者自身も予測困難な社会に不安も

進路について多様な話題で  
会話をすることが日常の風景に

前回調査の2021年は、コロナ禍で一斉臨時休業期間中の2020年に高校に入学した学年の生徒とその保護者が対象だった。今回はコロナ禍を経て、新学習指導要領での新課程が始まった2022年に入学した学年が調査対象となった。新課程の考え方の基本には、予測困難な時代に必要な力の育成がある。ここ数年でコロナ禍のみならず、世界各地で紛争が起こったり、生成AIが登場したりするなど、短期間で従来の常識や知識では予測困難な変化を現実のものとして目の当たりにしていることが、高校生や保護者が進路や教育を考えることにどう影響しているのだろうか。

まず、図1では高校生に、「進路についての話を保護者としているか」を尋ねたものだ。「よく話をする」が23%を占め、「ときどき話をする」まで含めると83%が「話す」と回答。保護者と進路の話をする比率はグラフの過去3回の調査のなかだけでなく、71%だった2005年の調査以降、継続的に増加傾

向にあり今回が最高値となった。

高校生が保護者に話す内容としては（図表は割愛）、「高校卒業後の具体的な進路（学校、学部・学科、就職先）」について「64%で最も多く、「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」などが50%以上で続いていた。直近の進路だけでなく、就職や将来など、長期的な展望について多岐にわたって会話をしていることがわかる。

図2では高校生に対して、「進路選択で保護者にあてはまること」として保護者の態度を尋ねている。「私の考えを尊重する」が68%、次いで「相談ののってくれる」が64%、「私の話をちゃんと聞く」が64%と、子どもを尊重し、相談ののりながら見守っている保護者の様子が上位となった。時系列でみるとコロナ禍であった前回の2021年はいずれの項目もスコアが低く出ている傾向があったが、今回は2019年の水準に戻ったものが多かった。「私の考えを尊重する」は2009年以降の調査で最高値となっており、高校生から見て、保護者は自分の考えを尊重してくれる存在として認識が高まっている。

図1 【高校生】進路についての話を保護者としているか（全体／単一回答）

	話す・計		話さない・計		無回答	話す・計	話さない・計
	よく話をする	ときどき話をする	あまり話をしない	まったく話をしない			
2023年全体 (n=1752)	22.8	60.2	14.3	2.0	0.6	83.0	16.3
2021年全体 (n=1815)	22.8	60.2	14.2	2.2	0.7	82.9	16.4
2019年全体 (n=1997)	22.0	59.8	16.0	1.7	0.5	81.8	17.7

子どもを尊重する保護者の  
声かけや態度が増加傾向

保護者が子どもと進路の話をするときに使う言葉を探ねたのが図3だ。「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」が66%と突出して

図2 【高校生】進路選択で保護者にあてはまること（全体／複数回答）

	2019年全体	2021年全体	2023年全体
私の考えを尊重する	70.3	63.5	70.4
あたたかく見守っている	68.3	64.6	69.5
相談ののってくれる	70.7	62.6	67.9
私の話をちゃんと聞く	67.6	57.7	64.4
私の進路について関心を持っている	69.0	53.8	63.2
励ましてくれる	54.5	46.0	52.6
今の進路や進学について知っている	52.1	42.5	51.1
具体的にアドバイスする	40.9	33.2	37.7
放っておいてくれる	30.2	22.5	32.8
進路について私よりも詳しく情報収集する	29.0	20.0	26.3

※「2023年全体」の降順ソート

### フリーコメント1

高校生

保護者の言葉をどう感じるか

自分の好きなことをしなさい  
・やりたいことをやりなさい

- 応援してもらえることはすごく嬉しいし、少しでも応援してよかったと思えるようにしたい。[群馬県／女子／大学]
- 嬉しいと思いつつ本当に自由に行っているのか心配になる。[秋田県／女子／大学]

自分でよく考えなさい

- うまく形にならないような、違和感や恐怖、焦燥感を感じる。[福井県／男子／大学]
- 自分なりに調べたりしているが、あまり良く思われていない。[奈良県／女子／就職]

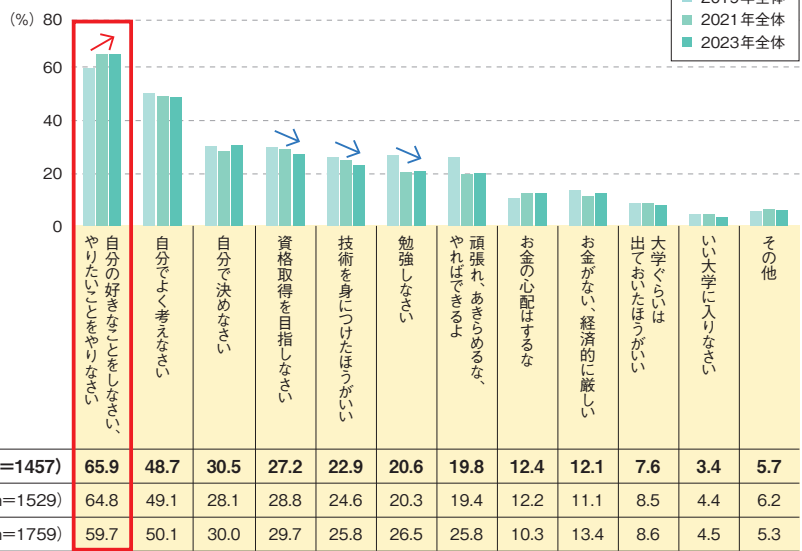
※末尾カッコ内の表記は  
[都道府県／性別／希望進路]

高く、時系列でも上昇傾向。一方「資格取得を目指さない」「技術を身につけたほうがいい」など具体的な方向性を示す言葉は減少し、「勉強しなさい」「頑張れ、あきらめな、やればできるよ」などおどろけたりするような声かけも微減傾向にある。

また、図4の「保護者との日常のコミュニケーションや行動」について高校生に尋ねた結果でも、「『あなたはこうしたい』『あなたはこう思う』とあなたの意見が尊重されている」が74%と最も高く、進路選択だけでなく日頃も、保護者から自分の意見を尊重されている、ことを実感している高校生が多いことがわかる。ただし、そのことを好意的に受け止めている高校生が多い一方で、34ページのフリーコメントのように、自分の意見に任されることに不安を感じている回答を寄せた生徒たちも少なからずいた。「進路選択について保護者にアドバイスをしてほしいか」という質問に対しては(図表は割愛)、「たくさんアドバイスをしてほしい」が13%、「ある程度アドバイスをしてほしい」が55%と、68%の高校生が「してほしい」と答えている。保護者には、子どもを尊重しながらも、子どもを一番よく知る立場や社会人の先輩として適度なアドバイスも求められているようだ。

日常のコミュニケーション全体としては、「コースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」を除いたすべての回答が増加傾向を示している。

図3 【保護者】子どもと進路の話をするときに使う言葉 (全体/複数回答)



※「2023年全体」の降順ソート

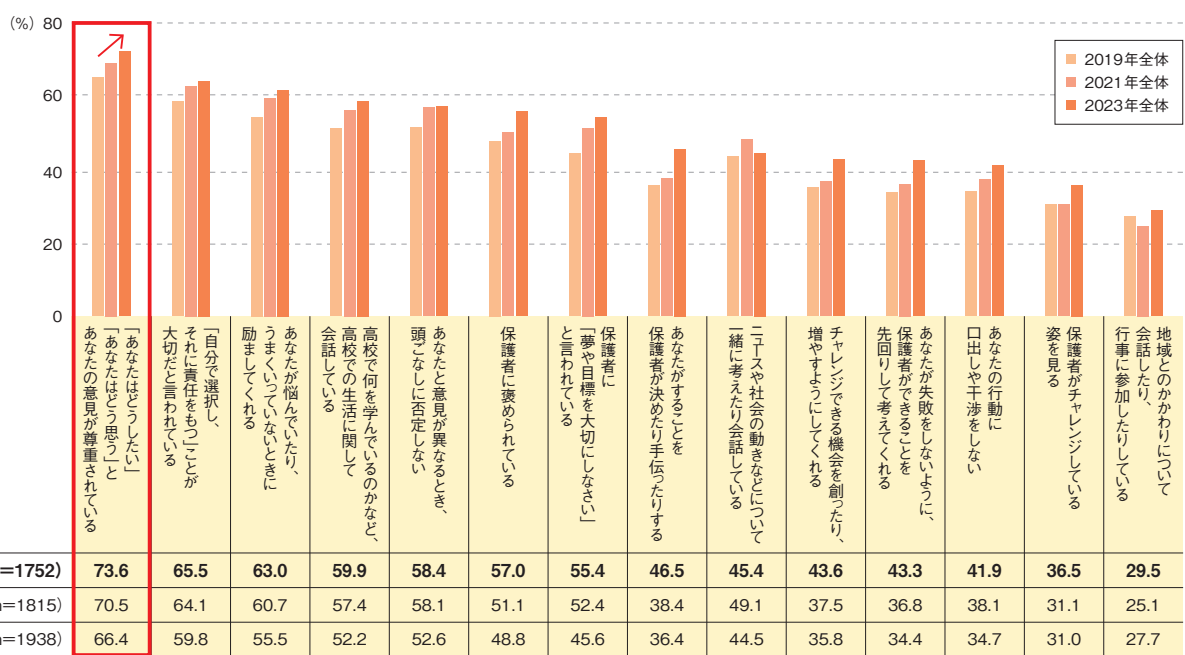
る。家庭での保護者と子どもの会話や関わりは、以前に比べて増えていると考えられる。

グローバル化への考え方は保護者と高校生で差異が

グローバル化する社会について高校

生に「将来グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか(図5)」と尋ねたところ、「ぜひやりたい」「できればやりたい」と回答。「なりたくない」は2019年より6ポイント減少したが、2017年(57%)とほぼ同水準。ただし、

図4 【高校生】保護者との日常のコミュニケーションや行動 (全体/単一回答)  
※各項目について5段階で聞いたうち、「とてもあてはまる」「あてはまる」の合計



※「2023年全体」の降順ソート

「ぜひになりたい」割合は2017年以降で最も低かった。一方、保護者は(図6)、子どもに将来グローバル社会で通用する人材に「ぜひなってほしい」が20%、合計では63%が「なってほしい」と回答。時系列では「なってほしい」が増加傾向で、2017年と比較すると21ポイントも増加している。

それぞれの回答の理由としては、子どもにグローバル人材になってほしいと答えた保護者では、「インターネットの発達で世界が身近になっていくから」や「グローバル社会に通用しなければ今後、取り残されていくから」など、社会の現状を見据えたうえで不可欠なことと捉えている回答が多かった。高校生でも「なりたいたい」と答えた生徒は「グローバル人材が求められているから」が多かったほか、「もっと広い世界を知りたいから」「なりたいたい職業に必要」と回答。しかし、「どちらでもよい」や「なりたいたくない」と回答者は「海外に興味がない」「グローバルをあまり知らないから」など、自分とは遠いことと捉えている。社会人として世の中の動きを体感している保護者と、まだそうではない高校生との間に温度差が見られた。

ここまで見てきたデータから、保護者としての子どもの将来への希望と子ども自身の希望に若干の温度差がありつつも、親子のコミュニケーションは増え、子どもの自主性を尊重する姿が見えてきた。その反面、進路選択について

子どもにアドバイスすることは「難しい」と考えている保護者は73%いる(図表は割愛)。その理由は(図7)「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」が51%と最多だったが時系列では減少傾向。逆に「子どもにアドバイスできる程、自分の生き方・考え方に

自信がないから」「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引けるから」が増加傾向にあり、保護者も予測困難な社会で自身の生き方に不安を感じ、子どもの人生にどこまで関わってよいのか悩む様子もうかがえる。

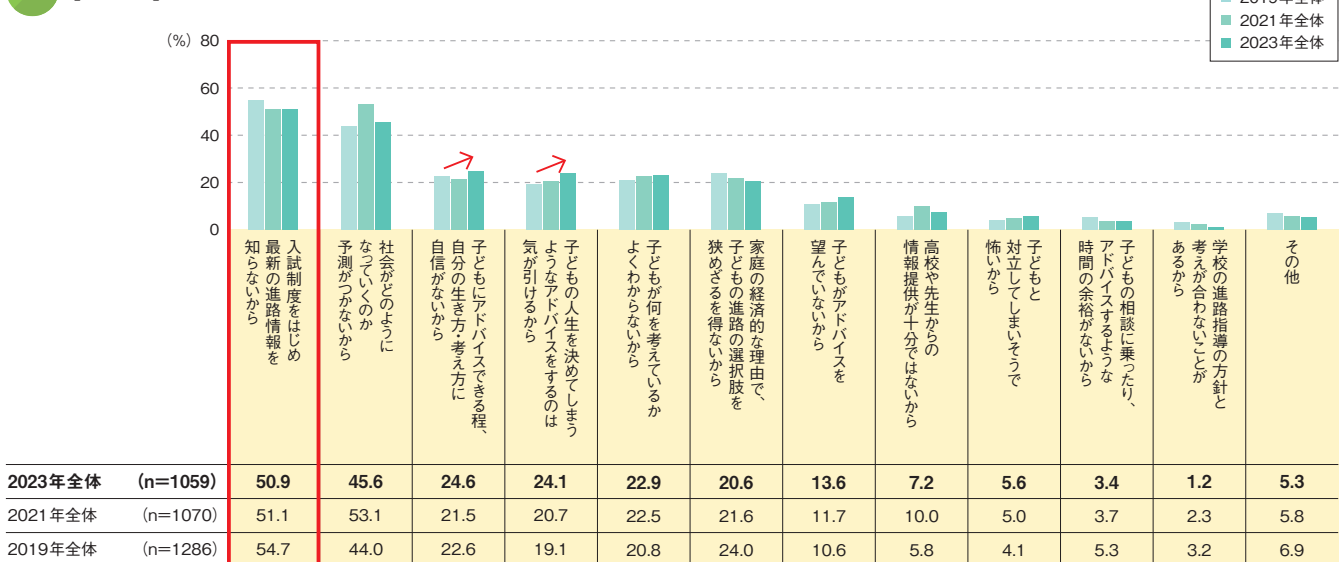
図5 【高校生】 将来グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか (全体/単一回答)

	なりたいたい・計		なりたいたくない・計		無回答			なりたいたい・計	なりたいたくない・計
	ぜひなりたいたい	できればなりたいたい	どちらでもよい	あまりなりたいたくない・計	なりたいたくない				
2023年全体 (n=1752)	23.6	35.2	27.9	5.9	5.0	2.4	58.8	10.9	
2019年全体 (n=1997)	32.3	32.1	22.9	5.2	4.7	2.8	64.4	9.9	
2017年全体 (n=1987)	27.6	29.6	28.4	4.7	6.1	3.6	57.2	10.9	

図6 【保護者】 保護者は子どもに将来グローバル社会で通用する人材になってほしいと思うか (全体/単一回答)

	なってほしい・計		なってほしいと思わない・計		無回答			なってほしい・計	なってほしいと思わない・計
	ぜひなってほしい	できればなってほしい	どちらでもない	あまりなってほしいと思わない	なってほしいと思わない				
2023年全体 (n=1457)	20.1	43.2	31.6	0.6	3.5	0.9	63.3	1.5	
2019年全体 (n=1759)	20.8	39.0	32.4	0.1	6.9	0.9	59.7	1.0	
2017年全体 (n=1722)	12.7	29.7	47.9	2.1	5.1	2.1	42.3	4.7	

図7 【保護者】 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因 (アドバイスが「難しい」回答者/複数回答)



※「2023年全体」の降順ソート



Part2

学校に対する認識と期待

教育改革を親子とも実感。  
生徒自身の変化は今後の教育に期待

高校や大学の教育改革には  
親子とも高い期待を寄せている

現在進行中の教育改革について、三位一体の改革といわれる「高校の教育」「大学の教育」「入学者選抜」の3観点から、期待と不安について高校生と保護者の考えを尋ねた(図8)。「大学の教育」「入学者選抜」の図表は割愛。

高校生・保護者とも、「高校の教育」「大学の教育」に対する期待度が高く、いずれの設問でも「期待」のスコアが「不安」よりも40ポイント以上高く出ている。「高校の教育」については、高校生は特に「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」が75%と、4人中3人が期待できると評価している。保護者が最も期待を寄せているのは「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(72%)で、高校生では3位の65%と比べても期待度が高かった。時系列では(図表は割愛)、保護者はすべての項目で増加傾向にあることに対し、高校生は前回の2021年はいずれの項目もスコアが低くなる傾向があったが、今回は2019

年よりもすべての項目で上昇していた。「大学の教育」では、大学・短大進学希望の高校生とその保護者に尋ねているが、高校生・保護者とも最も期待が高かったのが「大学や専門学校における入学後の学びが、社会や企業との連携を深めていく」、次いで「高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく」で、いずれも7割以上の高い回答率を示している。親子とも高大接続や大学・専門学校と社会・企業との連携、つまり社会にまで繋がっていくような高校からの学びに大きな期待を寄せている様子が見える。

「入学者選抜」についても大学・短大進学希望の高校生とその保護者に尋ねているが、高校生・保護者とも不安より期待の方がスコアは若干高かったものの、「高校の教育」や「大学の教育」と比して不安度が高めだった。特に、英語の「聞く」技能が重視されることや、「思考力・判断力」、「主体性」が入学者選抜で評価されることに対しては、親子とも期待と不安が拮抗している結果となった。

教育改革についての期待や不安をフ

リーコメントで尋ねたところ、高校生が期待することとしては、ICTの利用や探究学習によって主体的な学習が深まること、高校で学んだことが大学でもより発展して学べるようになること、さらには社会や企業とも連携することを期待する意見が多くみられた。保護者では、主体性を伸ばし、思考力や判断力を身につけることができる点や、新たな能力を獲得できる可能性、多様性に適応した教育について期待する意見が多かった。

一方で不安な点としては、高校生・保護者とも、高大接続により大学進学が一部のみにだけ有利になるのではないかという懸念がみられた。

本格的に始まった探究学習  
既に自己理解を深めた生徒も

通っている学校での教育改革への対応については、高校生の39%、保護者の29%が、通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じている」と回答(図表は割愛)。コロナ禍の2021年調査では高校生、保護者とも「感じている」割合が大きく減少したが、今回は大幅に増加し、特に保護者では2019年の水準以上に回復。コロナ禍があけて学校が通常運営に戻ったことで、高校における教育改革への対応の実感が増しているようだ。

通っている高校が教育改革への対応を行っていると感じている」と回答した高校生に、その取り組み内容を尋ね

図8 【高校生・保護者】〈高校の教育〉に関する教育改革への期待と不安 (全体/単一回答)

項目	対象	期待・計					不安・計			期待・計 - 不安・計の差
		期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である	わからない	無回答	期待・計	不安・計	
ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる	高校生	46.1	29.0	11.2	4.9	6.6	2.3	75.1	16.0	59.1
	保護者	29.6	41.7	15.3	3.6	6.2	3.6	71.2	18.9	52.4
先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	高校生	37.0	31.6	15.1	6.3	7.8	2.2	68.6	21.4	47.2
	保護者	24.2	42.0	19.2	4.3	6.9	3.4	66.2	23.5	42.6
生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	高校生	35.9	28.8	17.0	7.7	8.3	2.3	64.7	24.7	40.0
	保護者	34.5	37.3	15.2	4.2	5.2	3.6	71.8	19.4	52.4
学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	高校生	32.0	28.5	14.7	6.1	16.2	2.5	60.5	20.8	39.7
	保護者	33.2	34.5	12.4	3.0	13.0	3.9	67.7	15.3	52.4

※高校生「期待・計」の降順ソート

### 高校生が期待するA-Iの進化や未来社会に踏み出せる人材に

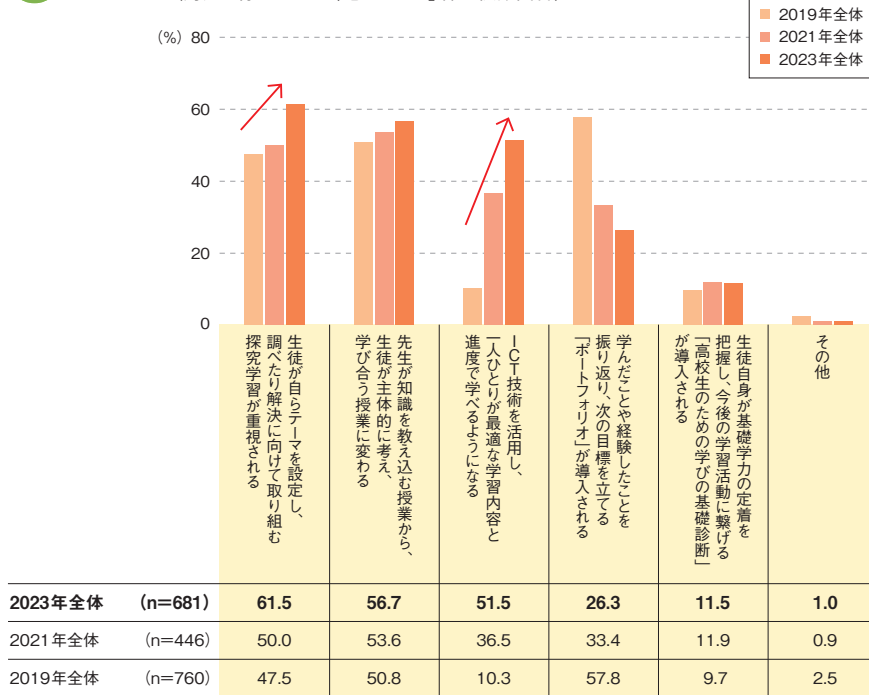
その図9だ。「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」が最も高く62%。時系列でも上昇傾向にあり、特に前回から今回は10ポイント以上高くなっており、「総合的な探究の時間」が始まったことが数値にも表れている。「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」という授業形態の変化も57%が回答。そして、「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」が前回から15ポイントと大幅に上昇。ICTが紙の代替品の文房具としてだけでなく、個別最適な学びに役立つツールであることを半数以上の生徒たちが感じ始めている。

高校生に対して、「探究学習」を通じて実際に自分のあり方や興味関心への理解が深まったかを尋ねたところ、深まったと「感じている」は26%で、「まだ感じていない」(36%)、「わからない」(34%)が拮抗している(図10)。「感じている」割合はまだ高くないものの、「総合的な探究の時間」が新課程として始まったばかりの学年の生徒たちへの調査と考えると、既に4分の1以上の生徒が探究学習によって自己理解が深まったと感じていることになる。今後、学校での取組が充実していくことで多くの生徒の自己理解が深まることが期待される。「深まった」と感じている生徒の理由についてはフリーコメント欄を参照されたい。

コロナ禍の功罪の功績の側面として、ICTの利活用が学校で急速に進んだことがある。前述の図9でも、それを高校生たちが感じていることがわかったが、ICT活用の良かった点について尋ねたのが図11だ。コロナ禍の休業によるオンライン授業での活用は減ったものの、「共同作業やディスカッションがしやすくなった」「探究活動など、自身の興味ある学びを深めることができ」たが大きくスコアを上げ、普段の授業での利点を実感している様子が見てとれる。

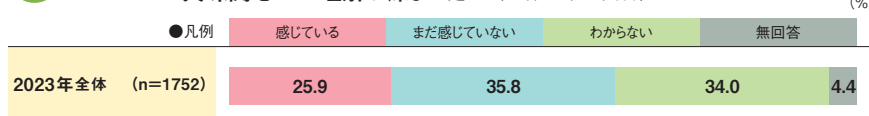
これから社会で働くにあたって必要な能力を定義する経済産業省の「社会人基礎力」を提示し、必要度と修得度を高校生に尋ねたのが図12だ。高校生が考える「将来必要とされる能力」の上位は、「主体性」「実行力」「創造力」「発信力」。また、現在持っていると思う能力とのギャップが大きく自分に不足していると考えている能力もこの4つが上位を占めている。この傾向は2019年調査からほぼ変わっておらず、保護者への調査(図表は割愛)でも「主体性」「実行力」「発信力」に対する捉え方は高校生とほぼ同様の傾向にある。ただし「創造力」については、将来必要な能力と回答した保護者は13%で時系列でも大きな変化がなかったことに対し、高校生は30%で上昇傾向にあ

図9 【高校生】通っている高校での教育改革への取り組み内容 (対応を行っている「感じている」者/複数回答)



※「2023年全体」の降順ソート

図10 【高校生】「総合的な探究の時間」を通じて自分のあり方や生き方、興味関心への理解が深まったか (全体/単一回答)



る。探究学習や課題研究など新しい価値を生み出す授業が増えたり、A-Iの出現により、人間にしかできない分野を高校生がより意識しているのかもしれない。

実際に、A-Iが普及する時代に必要能力について、「創造力や発想力」と答えた高校生が多数いた。そしてA-Iなどの技術革新に期待する高校生は61

#### フリーコメント 2 /

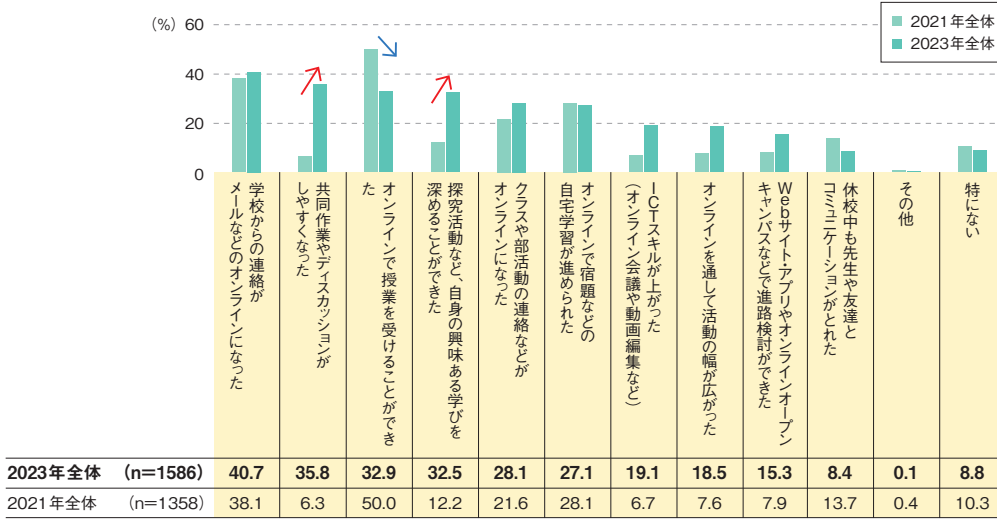
高校生

#### 「探究学習」で自己理解が深まった理由

- 地域課題について自分の問題と一緒に深まったから。[秋田県/男子/就職]
- 課題解決能力が身についたことで、それまでのプロセスを重視し、今自分が何をすべきなのかというものがはっきり可視化されているから。[徳島県/女子/大学]
- 新しいことを知ると、よりのびのびと生きていけると感じたから。[静岡県/女子/就職]
- 好きなこと、興味があることについて探究していくので、楽しい、知識が増やせる喜びがあるから。[福井県/女子/専門学校]
- 課題研究は探究の授業だけでなく、日々の生活でも繰り返される要素だと気づけたから。[東京都/男子/大学]

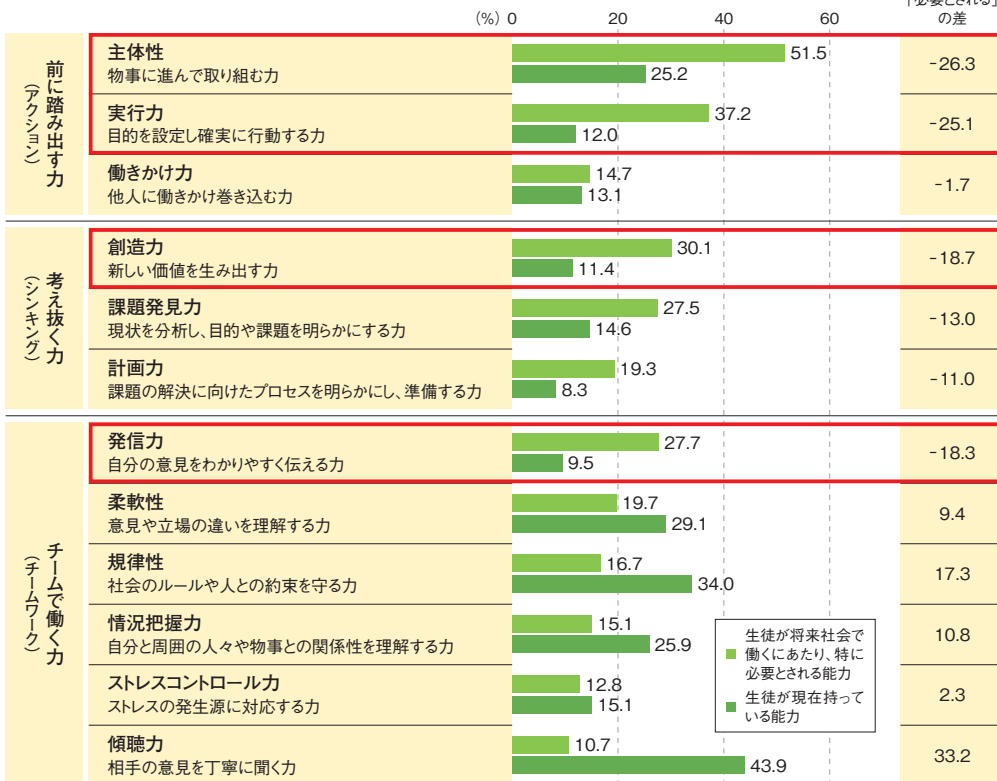
※末尾カッコ内の表記は [都道府県/性別/希望進路]

図11 【高校生】 高校でのICTの活用について良かった点 (学校でICTを活用している者/複数回答)



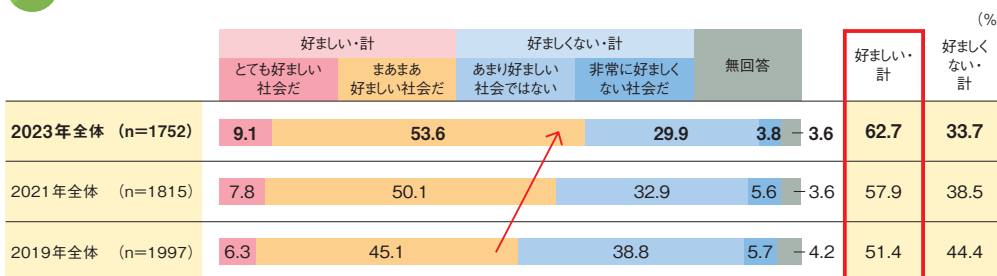
※「2023年全体」の降順ソート

図12 【高校生】 将来必要とされる能力と現在持っていると思う能力 (全体/それぞれ3つまでの複数回答)



※カテゴリーごとに「生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート

図13 【高校生】 高校生にとって、これからの社会は好ましいか (全体/単一回答)



「%と高く、保護者の53%よりも上回っている(図表は割愛)」。

「これからの社会への期待について、高校生にとって、これからの社会は好ましいか」という設問に対しては、「好ましい」「とても好ましい社会だ」と

「まあまあ好ましい社会だ」の計が高

校生・保護者とも時系列では上昇傾向にあるものの、今回調査でも保護者は50%と半数に留まっていた(図表は割愛)。しかし、高校生は63%が好ましいと捉えている(図13)。フリーコメント

でもAIと人間の共存に期待する声

が非常に多く、便利で働きやすい世の中になることや、グローバル化で世界と繋がること、多様性を受け入れる風潮への期待感が高かった。予測困難な未来社会に対して大人が不安を感じ

じていても、子どもたちは前を向き受け入れていこうとする姿がうかがえる。

その姿を支えるためにも、高校生が必要と考える能力と自分が持つ能力のギャップが減少していくような高校教育が、今後一層期待されている。